

議員になる前は自動車板金工

議員になる前の仕事は自動車板金工。車やバイク、自転車の整備にこだわっているのは、設計し製作した人へのリスペクトがあるからです。とにかく機械モノが大好きで、触っていると夢中になり没頭できます。

徹底調査で疑惑解明

とことんこだわって調査を行います。旧たかはた保育園の民営化問題では、元副市長の新たな兼業の実態を調べ上げ、第三者調査委員会発足の契機を作りました。ここから事件の輪郭が明らかになり、日本共産党市議団のするとい追及につながりました。

同僚時代から、まじめに一途に頑張ってきた大高さんを、心から信頼し、応援しています。

清水とし子 東京都議



大高 哲史のお約束

- ☑ ワゴンタクシーの土・日運行を実現します
- ☑ 高幡図書館を改修し雨漏りをなくします
- ☑ 小学校体育館にエアコンを設置します
- ☑ ボロボロ道路を早期に改修します
- ☑ 学校給食の無料化を実現します
- ☑ UR賃貸住宅の家賃値下げを要求します



大高 哲史

おおたか てつし

日本共産党 日野市議会議員

不正を正し切実な願い実現

コロナ禍で市民の暮らしと営業は深刻になっています。ところが、日野市は「お金がない」と市民に我慢を強いる政治を続けています。その一方で、不正や疑惑がひろがり、税金が不法に支出されている実態が次々に明らかになってきました。私は、市政のゆがみをただし、税金の使い方を市民の暮らし第一に切りかえます。小学校体育館へのエアコン設置、ボロボロ道路の改修、高幡図書館の改修、ワゴンタクシーの土日運行など切実な願いを実現するために全力を尽くす決意です。

大高 哲史の活動地域

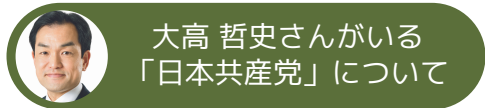
高幡台団地、百草団地、日本信販住宅、百草の一部、三沢3丁目の一部、三沢4・5丁目、程久保、高幡の一部

大高 哲史の活動報告

f t 大高哲史 
<http://www.jcp-hino.jp/>

大高 哲史プロフィール

1973年 百草園団地生まれ。都立日野高校卒。専門学校卒業後、自動車板金会社勤務を経て、2006年から日野市議会議員。市議会民生文教委員長などを歴任。現在、企画総務委員会副委員長。住みよいまちづくり、子育て、教育、福祉の充実に力をつくす。団地自治会長役員としてみなさんと一緒に行動。最近上達したことは、シャツのアイロンがけ。



大高 哲史さんがいる
「日本共産党」について

みなさんはSNSで「#困ったときには共産党」という言葉を見かけたことがありますか？これは生活苦やトラブル等で困った際に、日本共産党の人に相談をすると支援や解決へ繋げてくれたという話がネット上で広がり、コロナ禍以降、特に拡散されるようになったものです。

その言葉通り、日本共産党は「国民の苦難軽減」を立党の精神として国会や都議会、また、大高哲史さんのように各市区町村議会あるいは草の根で、毎日頑張っています。

今年はなんと党創立100周年。戦前から一貫して平和と民主主義を訴え、世の中の不平等を無くし、だれもが自由に生きられる社会を実現するため、今も努力を続けています。

日野市でも、現在5名の党市議団が、市政の不正追及をはじめ、国保料の値上げ阻止やコミュニティバス等公共交通の充実など、地域のみなさまの切実な願いを議会へ届け、実現するために全力をあげています。

今後もより暮らしやすい日野市をつくっていくために、日本共産党の5人が絶対に必要です。どうぞお力をお貸しください。

そしてもしお困りごとがありましたら、いつでも日本共産党へご相談ください。



(左から) 大高哲史、ちかざわ美樹、わたなべ三枝、岡田じゅん子、中野あきとの日野市議団

大高市議 補聴器の補助で一般質問 全会派一致で請願採択へ

担当者

補聴器の装用は生活の質を改善するためには有効

国や都に要望し、市も独自の購入費補助を

補聴器を使えるまでのトレーニング中の支援も必要だ

市長

たいへん勉強になった。今後そんなことが必要があると感じた

それから約2年。昨年9月の市議会で、補聴器の購入に補助金を求める請願が全会一致で採択されました。

実現すれば多摩地域26市では初めてのとり組みです。ぜひ実現させたいと思います。

高幡図書館の改修を行います

高幡図書館の雨漏りがなおりません。市議会でも何度かとりあげ「なおりました」という話でしたが、いまだに止まらず、「本が濡れたらどうするんだ」という声が寄せられています。

この問題の根底にも、現在の「財政非常事態宣言」のもとでの市政の根本姿勢が問われています。市民の財産である公共施設を守るため、税金の使い方の問題から厳しく迫っていきたいと思います。

ボロボロの歩道を改修させました

日野第三中学校・夢が丘小学校の周辺の歩道がボロボロでした。

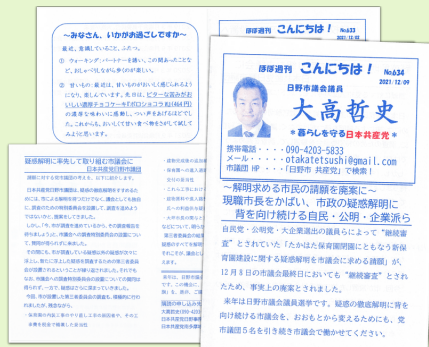
8年くらい前から住民の声があがり、大高哲史は何度も取り上げ補修を要求してきました。毎年、少しずつ補修が進み、ようやく完了しました。



高齢者、障がい者にとっても、老朽化しボロボロになった道路の改修は、ますます切実です。

必要なところに予算がきっちり配分されるように、歩道・生活道路の整備計画をつくらせ、ひきつづき歩行者にやさしい道路整備をすすめます。

「こんにちは！大高哲史」 ほぼ毎週発行つづけて634号



4期の議員生活を通してみなさんから寄せられる声が、どれも市政の根本問題につながっていると強く感じます。

ひとつひとつの声を大切に、ねがいの実現にとりくむことは、市政のゆがみを正す仕事と一体です。

みなさんと力をあわせてがんばりたいです。困ったことはなんでも相談してください。

